

ダイワ日本株式 インデックス・ファンド ーシフト11 Ver4ー

★当ファンドの仕組みは次の通りでした。

商品分類	追加型投信／国内／株式／インデックス型	
信託期間	約5年6カ月間（2015年3月31日～2020年9月18日）	
運用方針	わが国の株式市場の動きをとらえることにより信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	イ. わが国の金融商品取引所上場株式（上場予定を含みます） ロ. わが国の株価指数先物取引 ハ. スtockインデックス225・マザーファンドの受益証券 ニ. ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券 ホ. わが国の債券等
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	ベビーファンドの株式組入上限比率	無制限
	Stockインデックス225・マザーファンドの株式組入上限比率	無制限
	ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

運用報告書(全体版) 満期償還

(償還日 2020年9月18日)

(作成対象期間 2019年9月20日～2020年9月18日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、わが国の株式に投資し、わが国の株式市場の動きをとらえることにより信託財産の成長をめざしており、信託期間中につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、謹んで運用状況と償還の内容をお知らせいたします。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
（営業日の9：00～17：00）
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

設定以来の運用実績

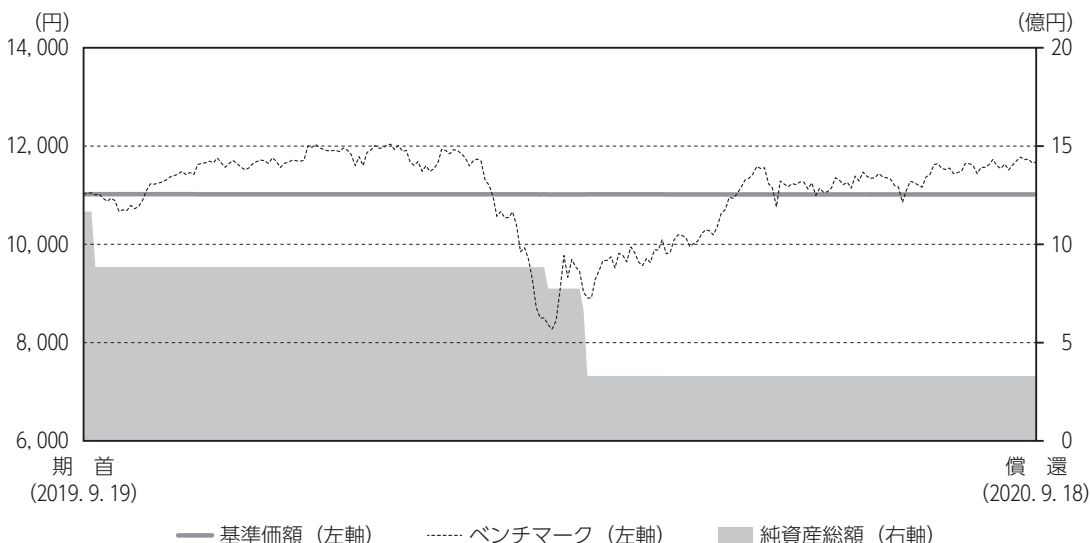
決 算 期	基 準 価 額			日 経 平 均 株 価		株 式 組入比率	株 式 先物比率	公 社 債 組入比率	純資産 総 額
	(分配落)	税込み 分配金	期 中 騰落率	(ベンチマーク)	期 中 騰落率				
	円	円	%	円	%	%	%	%	百万円
2 期末 (2016年 9 月20日)	8,668	0	△ 4.9	16,492.15	△ 6.1	96.5	3.5	—	9,783
3 期末 (2017年 9 月19日)	10,797	10	24.7	20,299.38	23.1	96.4	3.6	—	6,714
4 期末 (2018年 9 月19日)	11,030	0	2.2	23,672.52	16.6	—	—	—	1,798
5 期末 (2019年 9 月19日)	11,020	0	△ 0.1	22,044.45	△ 6.9	—	—	—	1,166
償 還 (2020年 9 月18日)	11,014.89	—	△ 0.0	23,360.30	6.0	—	—	—	330

(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。
(注 2) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
(注 3) 株式および株式先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
(注 4) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。
(注 5) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) ベンチマークは、期首の基準価額をもとに指数化したものです。

*ベンチマークは日経平均株価です。

基準価額・騰落率

設定時：10,000円

償還時：11,014円89銭（既払分配金10円）

騰落率：10.3%（分配金再投資ベース）

基準価額の主な変動要因

ベンチマーク（日経平均株価）への連動をめざした運用を行った結果、ベンチマークの動きを反映して、基準価額は上昇しました。また、安定運用に移行した後は、有価証券の値動きによる基準価額の変動はほぼなくなりました。

ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver4ー

年 月 日	基 準 価 額		日 経 平 均 株 価		株 式 組入比率	株 式 先物比率	公 社 債 組入比率
		騰 落 率	(ベンチマーク)	騰 落 率			
	円	%	円	%	%	%	%
(期首) 2019年 9 月19日	11,020	—	22,044.45	—	—	—	—
9 月末	11,020	0.0	21,755.84	△ 1.3	—	—	—
10月末	11,020	0.0	22,927.04	4.0	—	—	—
11月末	11,019	△ 0.0	23,293.91	5.7	—	—	—
12月末	11,019	△ 0.0	23,656.62	7.3	—	—	—
2020年 1 月末	11,018	△ 0.0	23,205.18	5.3	—	—	—
2 月末	11,018	△ 0.0	21,142.96	△ 4.1	—	—	—
3 月末	11,017	△ 0.0	18,917.01	△ 14.2	—	—	—
4 月末	11,018	△ 0.0	20,193.69	△ 8.4	—	—	—
5 月末	11,017	△ 0.0	21,877.89	△ 0.8	—	—	—
6 月末	11,016	△ 0.0	22,288.14	1.1	—	—	—
7 月末	11,016	△ 0.0	21,710.00	△ 1.5	—	—	—
8 月末	11,015	△ 0.0	23,139.76	5.0	—	—	—
(償還) 2020年 9 月18日	11,014.89	△ 0.0	23,360.30	6.0	—	—	—

(注) 騰落率は期首比。

設定以来の投資環境について

(2015. 3. 31 ~ 2020. 9. 18)

国内株式市況

国内株式市況は上昇しました。

国内株式市況は、設定当初より、統一地方選挙における自民党の勝利を受けアベノミクスが継続されるとの見通しから、上昇しました。2015年 8 月には、中国株式市況の急落をきっかけに中国経済への不安が高まり、さらには世界経済の減速懸念も台頭したことから、弱含みになりました。その後も上値の重い展開が続き、12月以降は、E C B（欧州中央銀行）の追加金融緩和策への失望や原油価格の下落などにより、再び下落に転じました。2016年 1 月末には、日銀がマイナス金利を導入し一時的に上昇しましたが、その後は、米国経済および中国経済への懸念などから下落しました。7 月下旬には、国内の財政・金融政策への期待や円高傾向の一服などから底堅い推移となりました。11月には、米国大統領選挙でのトランプ氏勝利を受けて、同氏の景気刺激政策への期待から上昇基調となりました。2017年 4 月に入ると、北朝鮮の地政学リスクの高まりが懸念され下落しましたが、4 月後半からは、フランス大統領選挙の結果を好感して上昇に転じました。10月には衆議院議員選挙で連立与党が勝利したことなどを受け大幅に上昇し、その後も米国税制改革法案の議会審議の進展および成立が好感され、上昇基調は継続しました。2018年 1 月下旬以降は、高値警戒感や米国の長期金利上昇を背景に大きく下落し、その後は米中貿易摩擦の行方をにらみながら一進一退の展開となりました。10月以降は、米中貿易摩擦の深刻化や、米国予算をめぐる議会の対立による一部米国政府機関の閉鎖などを背景に、軟調に推移しました。2019年 1 月以降は、米中貿易摩擦への懸念が和らいだことや米国における金融引き締め観測の後退などが支援材料となり、堅調に推移しました。8 月に入ると、米国が中国からの輸入製品に対する追加関税対象の拡大方針を示したことを受けて下落する局面もありましたが、その後は、中国商務省が米中でハイレベル協議を行うと発表したこと、米国が対中追加関税の税率引き上げ期限を延期したことなどを受けて米中関係の改善期待が高まったことや、英国の合意のない E U（欧州連合）離脱への懸念が後退したことなどが好感され、上昇基調となりました。2020年 2 月以降は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、世界経済への懸念が高まり大きく下落しました。3 月下旬以降は、経済活動再開や新型コロナウイルス治療薬開発への期待などから反発しました。

国内短期債券市況

国内短期債券市況は、日銀のマイナス金利政策の影響により、利回りはマイナス圏で推移しました。

国内短期債券市況は、設定当初より、日銀は金融市場調節の操作目標をマネタリーベースとする量的・質的金融緩和政策を維持しました。2016年 1 月にはマイナス金利付き量的・質的金融緩和を

導入し、9月には長短金利操作付き量的・質的金融緩和の導入を決定しました。このような日銀の金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利は低下し、マイナス圏で推移しました。2018年10月と2019年10月には国内外投資家による年末越えに関連した強い需要を背景に、2020年3月には新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けた急激なリスク回避的な動きを背景に、国内短期金利がマイナス幅を拡大させた局面がありましたが、いずれもその後は $\Delta 0.1\%$ 近辺までマイナス幅を縮小させて推移しました。

信託期間中の運用方針

■当ファンド

日経平均株価に連動する投資成果をめざして運用を行ってまいります。また、基準価額が一度でも11,000円を超えた場合、「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」の受益証券およびわが国の債券等による安定運用に順次切替えを行います。

■ストックインデックス225・マザーファンド

投資成果を日経平均株価の動きにできるだけ連動させるため、次のポートフォリオ管理を行います。

（イ）上記投資対象銘柄のうちの200銘柄以上に、原則として、等株数投資を行います。

（ロ）株式の組入比率は、高位を保ちます。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

信託期間中のポートフォリオについて

(2015.3.31～2020.9.18)

■当ファンド

日経平均株価に連動する投資成果をめざして運用を行いました。安定運用移行後は、「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」の受益証券を組み入れ、安定運用を継続して行いました。

■ストックインデックス225・マザーファンド

株式の組み入れを中心に、日経平均先物取引も一部利用し、信託期間を通じて、実質株式組入比率をおおむね99%程度以上の水準に維持しました。

株式ポートフォリオにつきましては、日経平均株価採用銘柄のうち当社独自の基準で財務リスクが高いと判断される銘柄を除いた残りすべての銘柄に投資を行い、日経平均株価の動きに連動する

ように、ポートフォリオを構築し運用しました。

また、日経平均株価採用銘柄の入れ替え時には、その都度、組入銘柄の入れ替えを行い、連動性の維持に努めました。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

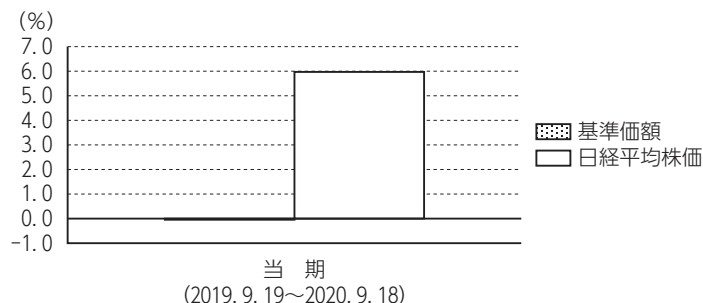
流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当作成期中のベンチマーク（日経平均株価）の騰落率は6.0%となりました。一方、当ファンドの騰落率は△0.0%となりました。

- ・安定運用を継続して行ったため、株式市況の上昇および下落がかい離の要因となりました。
- ・短期金融資産の利回りがマイナスとなったことがマイナス要因となりました。

以下のグラフは当作成期における当ファンドの基準価額とベンチマークとの騰落率の対比です。



分配金について

1万口当たり、第3期10円の収益分配を行いました。

また、第1期～第2期は基準価額等の水準を勘案し、第4期～第5期につきましては安定運用に移行していたため、収益分配を行いませんでした。

受益者のみなさまにおかれましては、当ファンドをご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。今後とも証券投資信託の運用につきましては、受益者のみなさまのご期待に沿えますよう万全を期して努力する所存でございますので、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

1万口当りの費用の明細

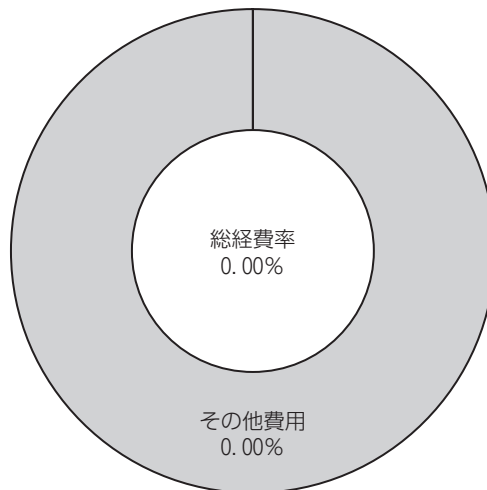
項 目	当 期 (2019. 9. 20～2020. 9. 18)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	一円	—％	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は11, 018円です。
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0. 002	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0. 000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0. 002)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	0	0. 002	

- (注 1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
- (注 2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
- (注 3) 各比率は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第 3 位未満を四捨五入してあります。
- (注 4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1 万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.00%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況
親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2019年9月20日から2020年9月18日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千□	千円	千□	千円
ダイワ・マネー アセット・ マザーファンド	—	—	1, 132, 529	1, 131, 457

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

親投資信託残高

種 類	期 首
	□ 数
	千□
ダイワ・マネーアセット・ マザーファンド	1, 132, 529

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年9月18日現在

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	330, 309	100. 0
投資信託財産総額	330, 309	100. 0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年9月18日現在

項 目	償 還 時
(A) 資産	330, 309, 811円
コール・ローン等	330, 309, 811
(B) 負債	7, 418
未払利息	4, 430
その他未払費用	2, 988
(C) 純資産総額 (A－B)	330, 302, 393
元本	299, 869, 105
償還差損益金	30, 433, 288
(D) 受益権総口数	299, 869, 105口
1万口当り償還価額 (C／D)	11, 014円89銭

* 期首における元本額は1, 058, 637, 497円、当作成期間中における追加設定元本額は0円、同解約元本額は758, 768, 392円です。

* 償還時の計算口数当りの純資産額は11, 014円89銭です。

■損益の状況

当期 自 2019年9月20日 至 2020年9月18日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 27, 077円
受取利息	5, 728
支払利息	△ 32, 805
(B) 有価証券売買損益	△ 126, 940
売買益	122, 641
売買損	△ 249, 581
(C) 信託報酬等	△ 5, 656
(D) 当期損益金 (A＋B＋C)	△ 159, 673
(E) 前期繰越損益金	29, 275, 594
(F) 追加信託差損益金	1, 317, 367
(配当等相当額)	(4, 656, 306)
(売買損益相当額)	(△ 3, 338, 939)
(G) 合計 (D＋E＋F)	30, 433, 288
償還差損益金 (G)	30, 433, 288

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

投 資 信 託 財 産 運 用 総 括 表					
信 託 期 間	投資信託契約締結日	2015年 3 月31日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2020年 9 月18日		資 産 総 額	330, 309, 811円
区 分	投 資 信 託 契 約 締 結 当 初	投資信託契約終了時	差 引 増 減 又 は 追 加 信 託	負 債 総 額	7, 418円
				純 資 産 総 額	330, 302, 393円
受 益 権 口 数	25, 000, 000口	299, 869, 105口	274, 869, 105口	受 益 権 口 数	299, 869, 105口
元 本 額	25, 000, 000円	299, 869, 105円	274, 869, 105円	1 単位当り償還金	11, 014円89銭

毎計算期末の状況

計 算 期	元 本 額	純 資 産 総 額	基 準 価 額	1 単位当り分配金	
				金 額	分 配 率
	円	円	円	円	%
第 1 期	14, 133, 444, 988	12, 888, 942, 390	9, 119	0	0. 00
第 2 期	11, 286, 428, 722	9, 783, 359, 881	8, 668	0	0. 00
第 3 期	6, 218, 817, 152	6, 714, 532, 951	10, 797	10	0. 10
第 4 期	1, 630, 392, 064	1, 798, 348, 824	11, 030	0	0. 00
第 5 期	1, 058, 637, 497	1, 166, 640, 891	11, 020	0	0. 00

(注) 1 単位は受益権 1 万口。

償 還 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 償 還 金	11, 014円89銭

【注記】

「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。日本経済新聞社は日経平均株価を継続的に公表する義務を負うものではなく、その誤謬、遅延または中断に関して責任を負いません。また、「ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver4ー」について、日本経済新聞社は一切の責任を負うものではありません。

《お知らせ》

■商号変更について

大和証券投資信託委託株式会社は、2020年 4 月 1 日付で、商号を「大和アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。

ストックインデックス 225・マザーファンド

運用報告書 第18期 (決算日 2019年9月19日)

(作成対象期間 2018年9月20日～2019年9月19日)

ストックインデックス 225・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

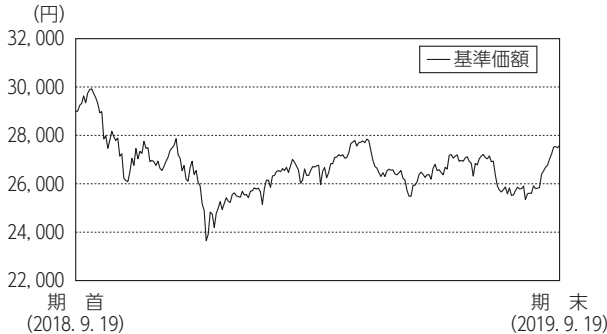
運用方針	わが国の株式市場の動きと長期成長をとらえることを目標に、日経平均株価をモデルとして運用を行ないます。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式のうち日経平均株価に採用された銘柄
株式組入制限	無制限

大和投資信託

Daiwa Asset Management

大和証券投資信託委託株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基 準 価 額		日経平均株価 (ベンチマーク)		株 式 組 入 率	株 式 先 物 率
	円	騰落率 %	円	騰落率 %	%	%
(期首) 2018年 9月19日	28,999	—	23,672.52	—	97.9	1.1
9月末	29,741	△ 2.6	24,120.04	△ 1.9	98.1	1.8
10月末	27,051	△ 6.7	21,920.46	△ 7.4	98.0	2.0
11月末	27,588	△ 4.9	22,351.06	△ 5.6	98.0	2.0
12月末	24,753	△ 14.6	20,014.77	△ 15.5	98.3	1.7
2019年 1月末	25,692	△ 11.4	20,773.49	△ 12.2	98.8	1.2
2月末	26,469	△ 8.7	21,385.16	△ 9.7	99.0	1.0
3月末	26,459	△ 8.8	21,205.81	△ 10.4	97.3	2.7
4月末	27,785	△ 4.2	22,258.73	△ 6.0	97.7	2.3
5月末	25,725	△ 11.3	20,601.19	△ 13.0	97.9	2.1
6月末	26,609	△ 8.2	21,275.92	△ 10.1	98.8	1.2
7月末	26,915	△ 7.2	21,521.53	△ 9.1	98.6	1.4
8月末	25,913	△ 10.6	20,704.37	△ 12.5	98.5	1.5
(期末) 2019年 9月19日	27,592	△ 4.9	22,044.45	△ 6.9	98.3	0.9

(注 1) 基準価額の騰落率は期首比。

(注 2) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。
上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注 3) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：28,999円 期末：27,592円 騰落率：△4.9%

【基準価額の主な変動要因】

ベンチマーク（日経平均株価）への連動をめざした運用を行った結果、ベンチマークの動きを反映して、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

◆投資環境について

○国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

国内株式市況は、当作成期首より、米中通商協議に関していったん悪材料は出尽くしたとの見方が広がったことや為替市場で円安が進行したことなどが評価され、上昇しました。2018年10月には、米国の長期金利が上昇したことに対する懸念や、国内外の決算発表において一部の分野で事業環境の悪化が見られたことが嫌気され、株価は下落しました。11月は、株価急落からの自律反発や米中首脳会談において米中通商協議に何らかの進展が見られるとの期待により株価が上昇したものの、12月に入ると、中国経済の減速懸念や利上げの停止に言及しなかったF R B（米国連邦準備制度理事会）議長の発言などが嫌気され、下落しました。しかし2019年1月には、F R B議長が一転して引き締め方向にある金融政策の軟化を示唆したことが好感されたほか、2月に開催された米中閣僚級協議などにより通商協議の進展期待が再び高まり、株価は反発しました。上昇一服後は一進一退で推移したものの、5月に入り米国が中国製品への関税率の引き上げや対象範囲の拡大方針を発表したこと、また中国の通信機器大手メーカーに対する取引制限措置を実施したことなどにより不透明感が高まり、株価は下落しました。下落一巡後は、世界景気の動向などに不透明感がある中で、6月末に開催された米中首脳会談で一定の成果が見られたことや米国の利下げ期待が支えとなり、株価は横ばい圏で推移しました。しかし8月に入ると、米国が再び対中追加関税の対象を拡大する方針を表明したことが嫌気され、株価は下落しました。9月以降は、米中通商協議の進展期待から、当作成期末にかけて上昇しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

当ファンドの運用方針に基づき、ベンチマークに連動する投資成果をめざして運用を行ってまいります。

◆ポートフォリオについて

株式の組み入れを中心に、日経平均先物取引も一部利用し、当作成期を通じて、実質株式組入比率をおおむね99%程度以上の水準に維持しました。

株式ポートフォリオにつきましては、ベンチマーク採用銘柄のうち当社独自の基準で財務リスクが高いと判断される銘柄を除いた残りすべての銘柄に投資を行い、ベンチマークの動きに連動するように、ポートフォリオを構築し運用しております。当作成期につきましては、ベンチマークに採用されている全銘柄を組み入れて運用を行いました。

また、ベンチマーク採用銘柄の入れ替え時には、その都度、組入銘柄の入れ替えを行い、連動性の維持に努めました。

◆ベンチマークとの差異について

ベンチマークの騰落率は△6.9%となりました。一方、当ファンドの基準価額の騰落率は△4.9%となりました。

- ・ファンドには保有している株式の配当金が計上されたのに対して、ベンチマークである日経平均株価では配当金の影響が考慮されないことが、プラス要因となりました。
- ・資金の流入に伴う現物株式および株式先物の売買等によるコスト負担等が、マイナス要因となりました。

《今後の運用方針》

当ファンドの運用方針に基づき、ベンチマークに連動する投資成果をめざして運用を行ってまいります。

ストックインデックス 225・マザーファンド

■ 1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (株式) (先物・オプション)	0円 (0) (0)
有価証券取引税	—
その他費用 (その他)	0 (0)
合 計	1

(注 1) 費用の項目および算出法については前掲の「1 万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注 2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

(2018 年 9 月 20 日から 2019 年 9 月 19 日まで)

	買 付		売 付	
	株 数	金 額	株 数	金 額
国内	千株 14,571.9 (1,614.9)	千円 51,184,664 (—)	千株 7,599.9	千円 24,584,715

(注 1) 金額は受渡し代金。

(注 2) () 内は株式分割、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注 3) 金額の単位未満は切捨て。

(2)先物取引の種別取引状況

(2018 年 9 月 20 日から 2019 年 9 月 19 日まで)

種 類 別		買 建		売 建	
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
国内	株式先物取引	百万円 47,048	百万円 47,178	百万円 —	百万円 —

(注 1) 金額は受渡し代金。

(注 2) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

株 式

(2018 年 9 月 20 日から 2019 年 9 月 19 日まで)

当 期				期			
買 付				売 付			
銘 柄	株 数	金 額	平均単価	銘 柄	株 数	金 額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
ファーストリテイリング	82	4,791,896	58,437	ファーストリテイリング	40	2,415,413	60,385
ソフトバンクグループ	276	2,275,901	8,246	ソフトバンクグループ	150	1,312,921	8,752
バンダイナムコ H L D G S	300	1,775,467	5,918	ファナック	40	841,041	21,026
オムロン	320	1,649,585	5,154	東京エレクトロン	40	702,662	17,566
ファナック	82	1,526,440	18,615	K D D I	240	659,180	2,746
K D D I	492	1,342,557	2,728	ダイキン工業	40	556,466	13,911
東京エレクトロン	82	1,232,470	15,030	京セラ	80	542,422	6,780
ダイキン工業	82	1,062,156	12,953	テルモ	132	532,552	4,034
ファミリーマート	154	1,056,046	6,857	ファミリーマート	130	453,014	3,484
テルモ	212	1,035,184	4,882	信越化学	40	419,225	10,480

(注 1) 金額は受渡し代金。

(注 2) 金額の単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 国内株式

銘柄	期首			銘柄	期首			銘柄	期首		
	株数	株数	評価額		株数	株数	評価額		株数	株数	評価額
	千株	千株	千円		千株	千株	千円		千株	千株	千円
水産・農林業 (0.2%)				日本化薬	252	294	382,200	金属製品 (0.3%)			
日本水産	252	294	185,514	花王	252	294	2,333,478	SUMCO	25.2	29.4	42,189
マルハニチロ	25.2	29.4	81,937	DIC	—	29.4	88,641	東洋製罐グループHD	252	294	499,506
鉱業 (0.1%)				富士フイルム HLDGS	252	294	1,410,906	機械 (4.7%)			
国際石油開発帝石	100.8	117.6	125,302	資生堂	252	294	2,564,268	日本製鋼所	50.4	58.8	122,715
建設業 (2.3%)				日東電工	252	294	1,577,016	オークマ	50.4	58.8	343,980
コムシホールディングス	252	294	877,296	医薬品 (7.7%)				アマダホールディングス	252	294	345,156
大成建設	50.4	58.8	244,902	協和キリン	252	294	621,222	小松製作所	252	294	729,708
大林組	252	294	324,576	武田薬品	252	294	1,104,558	住友重機械	50.4	58.8	194,040
清水建設	252	294	293,118	アステラス製薬	1,260	1,470	2,237,340	日立建機	252	294	776,454
長谷工コーポレーション	50.4	58.8	73,911	大日本住友製薬	252	294	544,194	クボタ	252	294	499,800
鹿島建設	252	147	211,386	塩野義製薬	252	294	1,719,900	荏原製作所	50.4	58.8	166,815
大和ハウス	252	294	1,053,108	中外製薬	252	294	2,357,880	ダイキン工業	252	294	4,255,650
積水ハウス	252	294	613,872	エーザイ	252	294	1,591,128	日本精工	252	294	279,006
日揮	252	294	426,006	第一三共	252	294	2,095,044	NTN	252	294	92,904
千代田化工建	252	—	—	大塚ホールディングス	252	294	1,395,618	ジェイテクト	252	294	379,848
食料品 (4.3%)				石油・石炭製品 (0.3%)				日立造船	50.4	58.8	20,756
日清製粉G本社	252	294	602,112	昭和シエル石油	252	—	—	三菱重工業	25.2	29.4	128,977
明治ホールディングス	50.4	58.8	466,872	出光興産	—	117.6	381,024	IHI	25.2	29.4	70,618
日本ハム	126	147	648,270	JXTGホールディングス	252	294	146,735	電気機器 (19.3%)			
サッポロホールディングス	50.4	58.8	155,173	ゴム製品 (0.9%)				日清紡ホールディングス	252	294	258,132
アサヒグループホールディング	252	294	1,567,020	横浜ゴム	126	147	319,284	コニカミノルタ	252	294	233,436
キリンHD	252	294	670,614	ブリヂストン	252	294	1,265,670	ミネベアミツミ	252	294	540,372
宝ホールディングス	252	294	329,280	ガラス・土石製品 (1.2%)				日立	252	58.8	239,022
キッコーマン	252	294	1,517,040	AGC	50.4	58.8	193,452	三菱電機	252	294	429,975
味の素	252	294	599,760	日本板硝子	25.2	29.4	19,345	富士電機	252	58.8	198,450
ニチレイ	126	147	368,088	日本電気硝子	75.6	88.2	212,826	安川電機	252	294	1,145,130
日本たばこ産業	252	294	675,612	住友大阪セメント	252	29.4	139,209	オムロン	—	294	1,714,020
繊維製品 (0.2%)				太平洋セメント	25.2	29.4	85,701	ジーエス・ユアサコーポ	252	58.8	112,543
東洋紡	25.2	29.4	42,306	東海カーボン	252	294	329,280	日本電気	25.2	29.4	138,474
ユニチカ	25.2	29.4	9,584	TOTO	126	147	610,785	富士通	252	29.4	259,337
帝人	50.4	58.8	121,245	日本硝子	252	294	461,580	沖電気	25.2	29.4	43,953
東レ	252	294	246,283	鉄鋼 (0.1%)				セイコーエプソン	504	588	916,104
パルプ・紙 (0.1%)				日本製鉄	25.2	29.4	44,820	パナソニック	252	294	262,424
王子ホールディングス	252	294	151,998	神戸製鋼所	25.2	29.4	17,199	ソニー	252	294	1,874,250
日本製紙	25.2	29.4	53,566	JFEホールディングス	25.2	29.4	38,763	TDK	252	294	2,807,700
化学 (8.4%)				日新製鋼	25.2	—	—	アルプスアルパイン	252	294	606,522
クラレ	252	294	399,252	大平洋金属	25.2	29.4	66,120	パイオニア	252	—	—
旭化成	252	294	324,135	非鉄金属 (0.9%)				横河電機	252	294	590,646
昭和電工	25.2	29.4	87,964	日本軽金属HD	252	294	58,800	アドバンテス	504	588	2,769,480
住友化学	252	294	148,176	三井金属	25.2	29.4	75,910	カシオ	252	294	471,282
日産化学	252	294	1,340,640	東邦亜鉛	25.2	29.4	59,358	ファナック	252	294	6,010,830
東ソー	126	147	215,208	三菱マテリアル	25.2	29.4	86,347	京セラ	504	588	3,989,580
トクヤマ	50.4	58.8	143,589	住友鉱山	126	147	503,328	太陽誘電	252	294	732,354
デンカ	50.4	58.8	176,164	DOWAホールディングス	50.4	58.8	216,678	SCREENホールディングス	50.4	58.8	384,552
信越化学	252	294	3,475,080	古河機金	25.2	—	—	キヤノン	378	441	1,291,468
三井化学	50.4	58.8	148,480	古河電工	25.2	29.4	74,146	リコー	252	294	304,878
三菱ケミカル HLDGS	126	147	118,937	住友電工	252	294	410,865	東京エレクトロン	252	294	6,109,320
宇部興産	25.2	29.4	65,121	フジクラ	252	294	115,836				

ストックインデックス225・マザーファンド

銘柄		期 首		当 期 末		銘柄		期 首		当 期 末		銘柄		期 首		当 期 末	
		株 数	株 数	株 数	株 数			株 数	株 数	株 数	株 数			株 数	株 数		
		千株	千株	千円	千株	千株	千円							千株	千株	千円	
輸送用機器 (5.0%)																	
デンソー		252	294	1,427,076	スカパー JSATHD		25.2	29.4	13,083	三井不動産		252	294	805,707			
三井 E&SHD		25.2	29.4	27,724	日本電信電話		50.4	58.8	309,934	三菱地所		252	294	613,284			
川崎重工業		25.2	29.4	68,031	KDDI		1,512	1,764	5,057,388	東京建物		126	147	219,765			
日産自動車		252	294	209,827	NTTドコモ		25.2	29.4	81,996	住友不動産		252	294	1,217,160			
いすゞ自動車		126	147	183,235	東宝		25.2	29.4	138,327	サービス業 (4.6%)							
トヨタ自動車		252	294	2,165,016	NTTデータ		1,260	1,470	2,093,280	ディー・エヌ・エー		75.6	88.2	173,136			
日野自動車		252	294	276,066	コナミホールディングス		252	294	1,475,880	電通		252	294	1,171,590			
三菱自動車工業		25.2	29.4	14,582	ソフトバンクグループ		756	1,764	8,142,624	サイバーエージェント		—	58.8	247,254			
マツダ		50.4	58.8	57,700	卸売業 (2.2%)						楽天		252	294	298,704		
本田技研		504	588	1,696,674							双日		25.2	29.4	10,290	リクルートホールディングス	
スズキ		252	294	1,265,670	伊藤忠		252	294	676,788	日本郵政		252	294	305,172			
SUBARU		252	294	900,522	丸紅		252	294	221,440	東京ドーム		126	147	151,263			
ヤマハ発動機		252	294	569,184	豊田通商		252	294	1,071,630	セコム		252	294	2,869,734			
精密機器 (3.4%)																	
テルモ		504	1,176	3,898,440	三井物産		252	294	540,519			千株	千株	千円			
ニコン		252	294	408,366	住友商事		252	294	516,117	合計		株数、金額	43,583.4	52,170.3	178,209,911		
オリンパス		252	1,176	1,652,280	三菱商事		252	294	818,202	銘柄数<比率>		225銘柄	225銘柄	<98.3%>			
シチズン時計		252	294	159,642	銘柄数<比率>												
その他製品 (2.2%)																	
パンダダイナムコHLDGS		—	294	1,875,720	小売業 (14.3%)		J. フロントリテイリング	126	147	187,866	(注1) 銘柄欄の()内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。						
凸版印刷		252	147	280,623	セブン&アイ・HLDGS		252	294	252,840	(注2) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。							
大日本印刷		126	147	407,778	ファミリーマート		252	1,176	3,176,376	(注3) 評価額の単位未満は切捨て。							
ヤマハ		252	294	1,414,140	高島屋		126	147	188,307								
電気・ガス業 (0.2%)																	
東京電力HD		25.2	29.4	16,199	丸井グループ		252	294	682,962								
中部電力		25.2	29.4	48,715	イオン		252	294	586,089								
関西電力		25.2	29.4	40,836	ファーストリテイリング		252	294	19,174,680								
東京瓦斯		50.4	58.8	166,257	銀行業 (0.7%)		コンソルディア・フィナンシャル	252	294	123,480	(2) 先物取引の銘柄別期末残高 (評価額)						
大阪瓦斯		50.4	58.8	122,480	新生銀行		25.2	29.4	46,069	銘柄別		当 期 末					
陸運業 (2.2%)																	
東武鉄道		50.4	58.8	208,740	あおぞら銀行		25.2	29.4	80,438	買 建 額		売 建 額					
東急		126	147	306,936	三菱UFJフィナンシャルG		252	294	166,139	国内		百万円		百万円			
小田急電鉄		126	147	383,670	リそなホールディングス		25.2	29.4	14,023	日経平均		1,596		—			
京王電鉄		50.4	58.8	408,072	三井住友トラストHD		25.2	29.4	118,070	(注) 単位未満は切捨て。							
京成電鉄		126	147	642,390	三井住友フィナンシャルG		25.2	29.4	111,308								
東日本旅客鉄道		25.2	29.4	310,170	千葉銀行		252	294	166,110								
西日本旅客鉄道		25.2	29.4	277,506	ふくおかフィナンシャルG		252	58.8	124,832								
東海旅客鉄道		25.2	29.4	661,500	静岡銀行		252	294	245,490								
日本通運		25.2	29.4	170,226	みずほフィナンシャルG		252	294	49,539								
ヤマトホールディングス		252	294	558,306	証券・商品先物取引業 (0.3%)		大和証券G本社	252	294	149,499							
海運業 (0.1%)																	
日本郵船		25.2	29.4	54,860	松井証券		252	294	277,242								
商船三井		25.2	29.4	85,495	保険業 (1.0%)		SOMPOホールディングス	63	73.5	340,966							
川崎汽船		25.2	29.4	38,837	MS & AD		75.6	88.2	317,520								
空運業 (0.1%)																	
ANAホールディングス		25.2	29.4	109,691	SONY FH		50.4	58.8	140,414								
倉庫・運輸関連業 (0.2%)					第一生命HLDGS		25.2	29.4	47,863								
三菱倉庫		126	147	403,809	東京海上HD		126	147	867,153								
情報・通信業 (10.6%)					T&Dホールディングス		50.4	58.8	67,767								
ヤフー		100.8	117.6	36,926	その他金融業 (0.2%)		クレディセゾン	252	294	406,308							
トレンドマイクロ		252	294	1,546,440	不動産業 (1.7%)		不動産業 (1.7%)										
					東急不動産HD		252	294	200,508								

■投資信託財産の構成

2019年9月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 178,209,911	% 97.6
コール・ローン等、その他	4,381,957	2.4
投資信託財産総額	182,591,868	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年9月19日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	183,455,405,305円
コール・ローン等	561,593,534
株式（評価額）	178,209,911,040
未収入金	3,642,098,631
未収配当金	140,315,000
差入委託証拠金	901,487,100
(B) 負債	2,110,121,593
未払解約金	1,243,815,000
差入委託証拠金代用有価証券	866,300,000
その他未払費用	6,593
(C) 純資産総額（A－B）	181,345,283,712
元本	65,724,660,910
次期繰越損益金	115,620,622,802
(D) 受益権総口数	65,724,660,910口
1万口当り基準価額（C／D）	27,592円

* 期首における元本額は56,651,695,845円、当作成期間中における追加設定元本額は20,929,762,181円、同解約元本額は11,856,797,116円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ストック インデックス ファンド225 32,674,102,769円、適格機関投資家専用・ダイワ・ストックインデックスファンド225V A631,369,403円、大和 ストック インデックス225 ファンド11,492,278,360円、D－I's 日経225インデックス205,107,795円、iFree日経225インデックス2,186,833,172円、DC・ダイワ・ストックインデックス225（確定拠出年金専用ファンド）5,584,885,712円、ダイワ・ノーロード 日経225ファンド313,091,286円、ダイワファンドラップ 日経225インデックス3,486,838,688円、ダイワ日経225インデックス（ダイワSMA専用）344,938,346円、ダイワ・インデックスセレクト日経225 8,805,215,379円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は27,592円です。

■損益の状況

当期 自 2018年9月20日 至 2019年9月19日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	3,558,286,890円
受取配当金	3,559,293,684
受取利息	49
その他収益金	500,163
支払利息	△ 1,507,006
(B) 有価証券売買損益	△ 9,159,607,116
売買益	10,703,444,465
売買損	△ 19,863,051,581
(C) 先物取引等損益	△ 155,416,765
取引益	673,487,272
取引損	△ 828,904,037
(D) その他費用	△ 922,219
(E) 当期損益金（A＋B＋C＋D）	△ 5,757,659,210
(F) 前期繰越損益金	107,633,546,777
(G) 解約差損益金	△ 20,811,750,784
(H) 追加信託差損益金	34,556,486,019
(I) 合計（E＋F＋G＋H）	115,620,622,802
次期繰越損益金（I）	115,620,622,802

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

運用報告書 第8期（決算日 2019年12月9日）

（作成対象期間 2018年12月11日～2019年12月9日）

ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

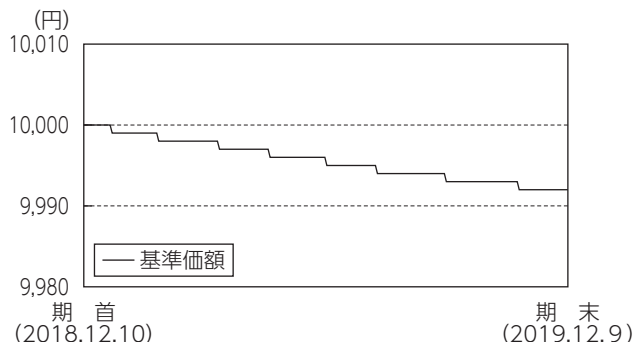
運 用 方 針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主 要 投 資 対 象	円建ての債券
株 式 組 入 制 限	純資産総額の10%以下

大和投資信託

Daiwa Asset Management

大和証券投資信託委託株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2018年12月10日	円	%	%
	10,000	—	—
12月末	10,000	0.0	—
2019年1月末	9,999	△0.0	—
2月末	9,998	△0.0	—
3月末	9,997	△0.0	—
4月末	9,997	△0.0	—
5月末	9,996	△0.0	—
6月末	9,995	△0.1	—
7月末	9,994	△0.1	—
8月末	9,994	△0.1	—
9月末	9,993	△0.1	—
10月末	9,993	△0.1	—
11月末	9,992	△0.1	—
(期末)2019年12月9日	9,992	△0.1	—

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,000円 期末：9,992円 騰落率：△0.1%

【基準価額の主な変動要因】

短期の国債やコール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性及資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性及資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性及資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (その他)	2 (2)
合 計	2

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2018年12月11日から2019年12月9日まで)

		買 付 額	売 付 額
国 内	国債証券	千円 40,000	千円 — (40,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) ()内は償還による減少分、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2018年12月11日から2019年12月9日まで)

当		期	
買	付	売	付
銘	柄 金 額	銘	柄 金 額
801 国庫短期証券 2019/3/18	千円 40,000		千円

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2019年12月9日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	7,324,100	100.0
投資信託財産総額	7,324,100	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年12月9日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	7,324,100,953円
コール・ローン等	7,324,100,953
(B) 負債	44,082
その他未払費用	44,082
(C) 純資産総額(A－B)	7,324,056,871
元本	7,329,994,437
次期繰越損益金	△ 5,937,566
(D) 受益権総口数	7,329,994,437口
1万口当り基準価額(C／D)	9,992円

* 期首における元本額は9,018,625,641円、当作成期間中における追加設定元本額は4,065,530,242円、同解約元本額は5,754,161,446円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ債券コア戦略ファンド (為替ヘッジあり) 999円、ダイワ債券コア戦略ファンド (為替ヘッジなし) 999円、通貨選択型ダイワ米国株主還元株αフットロプレミアム (毎月分配型) 219,583円、通貨選択型ダイワ米国株主還元株αフットロプレミアム (年2回決算型) 24,953円、ダイワ米国株主還元株ツインαプレミアム (毎月分配型) 848,389円、ダイワ米国株主還元株ツインαプレミアム (年2回決算型) 66,873円、ダイワ米国株主還元株ファンド36,730,213円、ダイワDBモメンタム戦略ファンド (為替ヘッジあり) 6,592,748円、ダイワDBモメンタム戦略ファンド (為替ヘッジなし) 10,288,683円、ダイワ／パリュール・パートナーズ・チャイナ・イノベーター・ファンド10,000円、ダイワ／NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり (年1回決算型) 4,995円、ダイワ／NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし (年1回決算型) 4,995円、ダイワ・ブラジル・レアル債α (毎月分配型) ースーパー・ハイインカムー α50コース49,911円、ダイワ・ブラジル・レアル債α (毎月分配型) ースーパー・ハイインカムー α100コース49,911円、ダイワ・オーストラリア高配当株ファンド・マネー・ポートフォリオ118,909,472円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver6ー 1,052,878,511円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver7ー 1,327,444,782円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver4ー 858,767,992円、ダイワ日本株式インデックス・ファンドーシフト11 Ver5ー 3,405,863,412円、ダイワ円債セレクト マネーコース504,712,528円、ダイワ・スイス高配当株ツインα (毎月分配型) 2,996,106円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター (毎月分配型) 為替ヘッジなしコース1,490,665円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター (毎月分配型) 日本円コース497,633円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター (毎月分配型) ブラジル・レアル・コース994,307円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター (毎月分配型) 通貨セレクト コース397,742円、ダイワ世界インカム・ハンター (年2回決算型) 為替ヘッジあり40,885円、ダイワ世界インカム・ハンター (年2回決算型) 為替ヘッジなし100,789円、ダイワ／NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり (毎月分配型) 1,235円、ダイワ／NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし (毎月分配型) 1,598円、通貨選択型 ダイワ／NB・米国債券戦略ファンド 日本円コース (毎月分配型) 1,544円、通貨選択型ダイワ／NB・米国債券戦略ファンド 通貨セレクトコース (毎月分配型) 1,984円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,992円です。
* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は5,937,566円です。

■損益の状況

当期 自2018年12月11日 至2019年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△4,832,170円
受取利息	2,318
その他収益金	4
支払利息	△4,834,492
(B) その他費用	△1,752,564
(C) 当期損益金(A＋B)	△6,584,734
(D) 前期繰越損益金	119,826
(E) 解約差損益金	2,559,971
(F) 追加信託差損益金	△2,032,629
(G) 合計(C＋D＋E＋F)	△5,937,566
次期繰越損益金(G)	△5,937,566

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。